◆職業奉仕セミナー 講演 「職業奉仕は心の故郷」 講師 橋本長平パストガバナー

司会者:

それでは、講演に入らせていただきます。

本日は、橋本長平第 2650 地区パストガバナーに「職業奉仕は心の故郷」というテーマで、ご講演を頂戴したいと思います。それでは、橋本パストガバナー、よろしくお願いいたします(拍手)。

橋本パストガバナー:

こんにちは。ただいま、安平パストガバ ナーからご丁重なる紹介をいただきまして、 ありがとうございました。私がこのセミナ ーに講師として招かれることになったのも、 実は安平パストガバナーのおかげでござい ます。お話にもありましたけれども、当地 区のロータリー財団管理委員をされている 三木明パストガバナーと同期でありまして、 その時の研修リーダーが、安平パストガバ ナーでございました。大変お世話になりま した。それ以後、ずっとお世話になりっぱ なしということでございます。ある日、 「地区の職業奉仕の講演会があるのだけれ ど、ちょっと出てくれ」と頼まれまして、 世話になりっぱなしになっている私が、安 平先生のリクエストに拒否できる立場では ありませんでしたので、止むを得ないなと。 「どんな話になるか知りませんよ」と。 「私の思っていることを述べさせてもらい ますよ」ということで、今日に至ったわけ でございます。

今日、私が話しすることは、私の本音でありますし、ちょっと古い考え方といいますか、そういうものも入っております。 時々、古いことを、今 RI の定款なんかで はずいぶん変わっておりますけれども、古いことを今のことのように言うこともあるかもしれませんが、古いことは古いことで、原則は原則として、本当は曲げてはいけないことについてだけ、古いことについて触れるときに、そういう誤解がないようにお願いしたいと思います。

人間誰しも、産まれた時から故郷を持っ ております。その故郷の中で人格を形成し て、故郷への思いを確立して、そこで培わ れた心を持って、人というのは社会に出て いくものであります。それと同じように、 ロータリアンは、ロータリークラブで勉強 を成して、ロータリーの根本を身に付けて、 ロータリーの奉仕活動に本格的に身を注い でおります。こういうことになるのでござ います。そのロータリーの根本というのは、 どのようなものかと、先に言いますと、そ れはロータリーでいう「職業奉仕」でござ います。「ロータリーでいう職業奉仕」と いう言い方をするのは、職業奉仕という言 葉が、日本で権威のある、昔からある辞書 には多分載っていないと思います。私も最 新版を買ったわけではないのですが、載っ ていないと思います。インターネットで

「職業奉仕」という言葉を引いてみますと、 載っているのは載っています。だけども、 間違った考え方だというふうに思います。 だから、ロータリアンとしてはそれを見過 ごすわけにはいけない。というより、ロータリーの中で職業奉仕が、今なおざりに れております。職業奉仕という言葉を、新 しい会員さんで聞かれたことがないも るかと思います。私は、私の所属するの委員 長をやっておりますので、新入会員の入会 前のメッセージを担当しておりますが、そ の時には必ず「ロータリーの本質は職業奉 仕ですよ」ということを述べております。

「職業奉仕についてちゃんと勉強してください」と。ただし、今の新しい本には、職業奉仕については、ほとんど何も書いておりません。だから、ちょっと古いものを紐解いてみて、職業奉仕を勉強してみてくださいねというのが、精一杯のことでございます。

私は、先ほどの紹介の中にも出てきましたけれども、今やっている「ロータリーの友」の特別顧問として、「ロータリーの友」の雑誌に毎月目を通しておりますけれども、「ロータリーの友」でも職業奉仕に関する。記事というのはほとんど載っておりません。時々、言葉自体は出てきますが、本写真等は載っての職業奉仕を正面から掴まえた写真等は載っていのが現状でありますからよいのも無理な面もあるかもしれません。しかし、ロータリーは、生まれて100年に至る。ちょっと前くらいまでは、「職業奉仕」はきちんとした形で伝承されてきました。100年を過ぎて、ロータリーは全世界

で 100 万人の人数を越して、それ以降です ね、ロータリーの会員数が伸びなくなって からは、会員増強のほうに力がいきまして、 会員増強がロータリーの主たる目的みたい になってきました。そのあおりを受けて、 ロータリーの職業奉仕というものは片隅に 追いやられて、一時、クラブリーダーシッ ププラン(CLP)という、地区リーダーシ ッププラン(DLP)は RI の組織ですから、 完全に実施されておりますけれども、それ に見合うクラブリーダーシッププランとい うものが出されました。クラブリーダーシ ップ理論なんていうものの中には、職業奉 仕なんか全く無視されております。そうい う中で、若い人たちに「職業奉仕を勉強し ろ | と言っても、なかなかその動機付けと いいますか、面白さに目を向ける暇がない といいますか、そういうチャンスがないと いうことが今の現状かなというふうに思っ ております。

「職業奉仕」というのはどういうものか、 「職業奉仕は心の故郷」という題名を付け て、今日、スピーチさせてもらっています けれども、それについては追って述べてい きますけれども、私の経験をひとつ、述べ させていただきます。

今からすでに半世紀ぐらい前のことになりますか、私は昭和 24 年生まれですので、終戦後 4 年ということになりますか、その時に、日本は太平洋戦争に負けて、アメリカの兵士たちに日本が占領されていた時代の話でございます。サンフランシスコ講和条約が 1949 年にできておりますので、その前後になると思いますが、私の家の前の通りをアメリカ兵がジープで通り抜けていくのが日常茶飯事でございました。私の住

んでいる家のもう一つ東側の通りに師団街 道という GHQ の師団に通ずる道がありま して、それが一方通行ですので、帰りは逆 に北へ帰る方向の時は、私の家の前の道を 通るというのが常でありました。彼らは、 僕らは幼少の、幼児ですね、食べるものも あまり豊かでない時代ですので、彼ら(ア メリカ兵) に「ハロー」という言葉をかけ ますと、彼らは、チョコレートなりガムな りをバーッと撒いていきました。周りの子 が集まり、チョコレートあるいはガム等、 ほかにもありましたけれど、そういうもの にわれわれは飛びついていったわけでござ います。そのアメリカ兵が、片手に日本の 若い女性をセクシーな形で身の横に置いて、 僕らにそういうことをしていたという事実 がございます。

これは、敗戦国の日本で食糧難にある。 この日本の子どもたちにチョコレートなり、 ガムなり、そういった物をやろうという意 思なのかもしれませんが、このやり方が、 道にばら撒く。まだ道の一カ所に置くとい うなら良いのですけれど、ばら撒いてそれ を嘲笑うがごとく彼らは去っていく。こう いうことがありました。それが毎日、毎週 のようにありまして、こういったもの、同 じものを人に施すにしても、これは奉仕と いうものには当たらない。何故なら、それ には奉仕の心がないからでございます。人 と人との心がないからでございます。やは り奉仕には心がなければ、奉仕という意味 にはなりません。もし、彼らに日本の幼児 たちに食料が不足しているので、それを助 けてやろうという気持ちがあったとすれば、 やっぱり手から手へ渡してもらうべきもの だったのかなというふうに思います。敗戦 国の惨めな有り様というのは、だいたいそのような、少年の心にはそれなりに傷が残りました。「やっぱり負けた国はダメだなあ」と、そういうふうに思ってしまいました。そこには別に感謝の念もございませんでした。要は、お腹を膨らますために、周りの子がやったように、チョコレートなり、ガムを追いかけるという、こういう毎日でございました。

今でも戦火が絶えない日々です。ウクライナでもそうでしょう。そして、また、ガザで揉めていることもあります。そういったところには、国連がやっているわけですという形でやっておりますけれども、これは、大してばら撒いているわけではなく、それは、大してばら撒いているわけではなったものだと。同ずいより心がこちのでは違うものがあるんだなということに気づかされるわけでございます。

そういった思いやりの心、奉仕の心は、いったいどこから出てくるのかということが、本日のテーマでございます。本日のテーマはおいおいお話し申し上げますが、その前にひとつだけ、ロータリーのモットーとの関係で少し触れておきたいと思います。

ご承知のとおり、ロータリーのモットーは二つございます。古い言い方で申し訳ございませんが、「He Profits Most Who Serves Best (最もよく奉仕する者、最も多く報われる)」、これは今は第二モットーというふうに順番が付けられています。第一モットーが「Service Above Self」ということでございます。「Service Above Self」

ども、「超我の奉仕」という言葉の日本人 の響きは、非常に格好いいということで、 なにか独り歩きしているような気がいたし ます。英語で言うと「Service Above Self」。 もともとこの言葉が出てくるまでは、 「Service, Not Self」ということだったよ うに書物には記載されていますが、日本人 としては、Service と Self は何か対立する 概念のように考えている人が多いせいで、 「Service, Not Self」ではダメだと。 「Service Above Self」でないとダメなん だと考えている方がいらっしゃるかと思い ます。実は、これはどちらでも同じことだ ろうと。あとは格好の良さかなというだけ のことですが、「Service Above Self」のほ うが、本質を捉えやすいかなというふうに 思います。「Service Above Self」、セルフと いうのは「己」「自己」ですね、それを、 自己研鑽することによって、そこから生ま れてくるサービスは、元々の Self を乗り越 えている。そういう概念でございます。だ から、ロータリーの求めているサービスと いうのは、日々の研鑽、あるいはサービス に徹する心がけといいますか、そういうも のを毎日毎日磨くことによって、サービス が生まれてくる。そのサービスが生まれた ら、元のセルフはすでに変わったセルフに なっている。つまり、その人の人格が上回 っていると。こういう言葉だろうと、私は 解釈しております。

は「超我の奉仕」と訳されておりますけれ

職業奉仕の典型というのを先に述べさていただきますと、誰でもご存じのとおり、年に1回、先日ノーベル賞の発表がございました。ノーベル生理医学賞というもので、最近では京都大学の本庶佑教授が受賞され

ました。私は50歳の時から、京都大学の 医学部の医学研究科の博士過程に 3 年在籍 しておりました。その関係もあって、本庶 先生はよく知っておりますが、大変厳しい 方でございます。厳しいというのは、なに も恐いということではなくて、自分に厳し い人でございます。学生にも、例えば、通 常の風景となっておりますが、皆、ペット ボトルを置いて講義を聞いております。そ れは許さない。「ペットボトルは下げてく ださい。ペットボトルが要るのは話してい る私なんです。あなた方は話す機会がない から、それはしまっておいてください!と。 「こちらから話していて、バーっと飲まれ ていると、話をしているのも気が滅入る時 もあるから、そういう人は、どうしても飲 みたくなったら、教室の外へ自由に出て行 って結構ですから、外で飲んでください。 そして戻ってきたら、それをしまっておい てください。もちろん、おしゃべりをした かったら、外でやってください。外で話さ れる分には何も私は咎めませんが、教室内 では、ほかの学生さんたちの迷惑になるの で、そういうことは止めてください | と。 物事にきちんとけじめを付けた先生でござ います。しかし、この先生は、日頃の自分 の職業、分子生物学の先生でございますが、 基礎医学の中でも最もややこしいといいま すか、難しい分野でございますが、これに ついての毎日の姿勢を見ておりますと、本 当に厳しいものを感じました。受賞された 5~6年前にも有力な受賞候補に挙がってお られました。これは、別の内容でございま す。今回受賞されたのは、またそれとは別 のことでございます。

本庶先生は、自分の職業の質を一生懸命

高められたわけでございます。自分の研究 対象とする分子生物学をずっと高めていく ことによって、結果的にそれが新しい治療 法に繋がった。がんになっても、腹を裂い て開腹手術をすることもなく、飲み薬でそれが治るようになった。これは世界にとって、 ま常に大きな発明、新発見であります。 というか、研究そのものは製薬会社がもちろんすぐに飛びついは製薬会社がもちろんすぐにれたわけでいまました。というか、研究そのもれたわけで ございますけれども、非常に大きな利益を生むのスポンサー付きでやっておられた利益を 生む事業となりました。大きな利益を生むということは、実は世界中で本庶先生の治 療法が即役に立ったということだろうと思います。

ロータリーの奉仕は、職業奉仕。職業奉 仕というのは、一人についての職業ですか ら、団体奉仕ではありません。個人奉仕で すね。個人奉仕は、世界の人たちに向かっ て、大きなことができるわけでございます。 そういう意味で、このことについては後で 触れることもあるかもしれませんが、この 先生は、患者のために一生懸命やられた。 患者への思いやりですね。患者への医学的 負担を少なくするためにどうしたら良いか ということを考えられた結果、そういう発 明に至ったということでございます。それ から、その分野での医療の質が変わった。 医療の質が良くなったということでござい ます。つまり、職業奉仕というのは、職業 の質を変えていく、良くしていくものとい うことでございます。その結果どうなった かといいますと、本庶先生はそれなりの、 また新しい、それまでと違ったステップを 踏む研究者になられた。Service Above Self という形でやられたと、こういうこと

でございます。

もう一つの標語といいますか、モットー は、原文のオリジナルのままで言いますと、 「He Profits Most Who Serves Best」です ね。日本人は、profit という言葉を訳すこ とで、お金儲けができるというニュアンス のことを嫌います。なんとなく嫌っている という風潮です。そういう意味で、「お金 ではなくて、もうちょっとほかの言い方は ありませんか」という形で、今標準的な訳 になっていますけれども、元々、profit と いうことは、アメリカでは完全にお金に関 するものでございます。金儲けができると。 アメリカ人は金儲けをすることを恥とは思 っていない。もちろん、倫理性がなければ 恥と思うかもしれませんが、倫理的に金儲 けをするということについては、むしろ、 誇りに思っておるわけでございます。

アメリカンドリームを達成したといえば、 皆さん即承知の大谷翔平選手を思い出され ると思いますけれども、大谷選手も一生懸 命自分の野球選手としての成せることはす べて、すべてとは言いませんが、彼の思い つくことでやれることは全部やってきた。 プロ野球選手というのが彼の職業分類にな ろうかと思いますけれども、やはりファン があってのプロでございます。ファンに対 するサービス。あるいは野球場でゴミを出 さないために自分で拾って歩く行為、こう いったことがすべて彼の努力の賜物の一つ でございます。そして、本来の打撃、ピッ チャーとしての努力、そういうものが一つ になって、彼のアメリカンドリームは達成 されたのかなと思います。だから彼はその 結果、いまや大金持ちでございます。日本 人はそういう時になってくると契約金はい

くらになるんだ、年俸はどうなるんだ、コマーシャル料はどうだとか、そういうわかったようなわからんような話を噂話でするわけですが、そういう時には、あまりお金のことにこだわっていない話をするわけでございます。しかし、えてしてお金の話については日本人は不得手、できるだけ精神的なものにということで、公式な訳はそれからちょっと外れていると。

ただし、アメリカ人は金儲けがすべてで はないんですね。アメリカ人は金儲けをす る人は、それだけの徳が備わっているとい うふうに考えています。だから、金で換算 していますけれども、金に換算するほどの、 その人には徳があった。徳というのは、サ ービスをやっていたと。こういう考え方で ございます。だから、アメリカ人はお金に 対してケチ臭いわけでも何でもございませ ん。お金に対して、開けっ広げといいます か、おおらかな考え方の国民です。だから、 He Profits Most Who Serves Best という 訳も、あまり気にされない、出さないとい うことについて注意をする必要はないんじ ゃないかなと、私は本音ではそう思ってお ります。今の公式訳が悪いとケチをつけて いるわけではございませんけれども、お金 儲けができるというところが、本来の意味 でございます。

なぜ、その二つのモットーを職業奉仕を 語る前にお話し申し上げたかということで ございます。職業奉仕というのは、個人の 職業ですから、職業で奉仕をするというこ とは、当然個人奉仕でございます。そして 今申し上げた二つのモットーですね。これ は今、社会奉仕だけがロータリーの奉仕で あるかのように思われていますけれども、 これは社会奉仕にはあてはまりません。もし、社会奉仕のサービスをこれに当てはめると、社会奉仕はお金がかかります。お金がかかって、どんどん、どんどんそれに使っていると、その人は貧乏になります。だから、「He Profits Most Who Serves Best」という言葉は、社会奉仕に向けられた言葉ではありません。「Service Above Self」も同じことでございます。個人ですね。「selves」ではなくて「self」、個人の自己ということでございます。

これは実は、どこに元々の言葉があった かといいますと、元々は個人が言い出した わけですが、それが歴史的な文献として残 ったというのは、決議 23 の 34 ですね、 1923 年 34 番目に採択された決議案、この 中に出ている言葉でございます。その中で RIの理事会の意向も含めてではございます が、RI はなんとなく職業奉仕には消極的 でありますから、社会奉仕に関する声明と いう表題で扱っております。その社会奉仕 に関する声明第一項に載っているのが、実 は「Service Above Self」と「He Profits Most Who Serves Best |、こういう言葉で ございます。しかしこれは社会奉仕に適用 されるべきものではございませんので、題 名だけを見て「ああ、これは社会奉仕のこ とだ」と誤解されやすいところはございま すけれども、そこは賢明な皆さんの中で、 裏を読んでおいていただきたいなと思いま す。

本題に入る前に、非常に皆さんに身近に ある言葉を二つ紹介しましたけれども、こ の二つを皆さんが身近に考えておられると すれば、それは個人奉仕でありますし、そ して、決して団体奉仕の言葉ではないとい うことを頭に叩きつけておいて欲しいのです。社会奉仕をやりながら一生懸命これを言っているということは、自己矛盾そのものでございます。これは、職業奉仕に関するサービスでございます。職業奉仕というのは書いますけれども、職業奉仕という定款に書いてあったものは、あれは全部職業奉仕について述べたものと、こう解釈しておりますので、ロータリーの綱領に関する声明ということは、まさに、それを反映したものになっていると考えています。

いよいよ本論に入ってまいりますが、ロ ータリーでいう職業人というのは、どうい ったものかというところから、まず考えた いと思います。職業奉仕という限りは職業 人が居なければならない。したがって、ロ ータリークラブは職業人の集まりでありま す。これも私の地区の事情を申し上げます けれども、もう 30 年くらい前のことでご ざいますが、京都ロータリークラブがホス トをした地区大会がございました。新聞の 片面一面に、地区大会の宣伝文を出したわ けでございます。地区大会で何をやるかと か、そんなことは何も書いていませんが、 そこには大きな字で、「ロータリー奉仕団 体ではありません。奉仕をする人々の集ま りです」という趣旨の広告がありました。 これは非常に物議をかもし出したというよ り、「おお、なるほど、やったで」という 感じの受け方が当地区ではまだまだありま した。これがロータリーだと。奉仕をする 人々の集まりなんですね。クラブで奉仕を しようとか、今みたいに、ロータリー財団 で奉仕をしようとか、そんなことは必要最 小限のところではやる必要があるかもしれ

ませんが、それを主としてやる必要はまっ たくございません。もしそれを主としてや りたいのであれば、どうぞどうぞ、ほかの クラブに移られたらいいかなというふうに 思います。ロータリーと対比されるライオ ンズクラブは、非常に大きいテーマを持っ ております。ライオンズという言葉ですね、 知っておられる方は多いと思いますけれど も、ライオンズの L は Liberty、 I は Intelligence, Old Our, Nld Nation's, S Safety. Liberty, Intelligence, Our Nation's Safety、これがライオンズの掲げ る目標、理念でございます。非常に高貴な 理念でございます。ライオンズのやってい ることは、それに向かって団体奉仕をやり ましょうと、こういうことでございます。

ロータリーはそれと比べると、若干何か理念では欠けているかなと、ロータリーの公共奉仕を高めると一生懸命誰かが言っていますけれども、Liberty、Intelligence、Our Nation's Safetyと比べると、ちょっとロータリーのほうは見劣りするように思います。別にそれは見劣りしても、中身が問題ですから構いませんけれども。常にライオンズは、「We Serve」という言葉を使います。何をするにも We Serve。社会奉仕をやるについてはお金がかかりますので、ライオンズでは社会奉仕ばかりをやりますが、そのためにお金を集める手段は問わないということでございます。

先ほど、チラッと小堀憲助さんの話がありましたので紹介しておきますと、極端な話ですよという話で、これは良いということではありませんけれども、ライオンズでは、ドネーションによって、すべての穢れが解けるんですよと。だから泥棒してきた

お金をもってドネーションしても構わない。 それはライオンズにドネーションすること によって、それの持っている穢れた面が清 らかになるんですよと、極端な話はそうい うものであります。したがって、職業についての倫理性について、あまり高いことを 要求することもありません。ただ、今の時 世の中ですから、それなりのことを要求されるのは当たり前のことで、それは社会人として当たり前の常識ですが、自らがそれで内部規制をする、内部でそういうことを 考えていこうということはありません。

結果として、ライオンズの「社会奉仕」 と、ロータリーの「職業奉仕」、どちらが 大きなことができるか。それはロータリー のほうに分があるわけでございます。先ほ ど、ノーベル賞の話をしましたが、ノーベ ル賞なんて私たちには関係のない話ですよ と。大谷翔平の話も、あれもやっぱりわれ われとは違う世界の人ですよと。大谷翔平 に先立つイチロー選手も、あれもわれわれ とあまり関係ありません。そうおっしゃる 方が大部分だと思いますけれども、一方で、 職業奉仕とは、自分の職業ですね、職業に ついての新発見、あるいはイノベーション、 あるいはノウハウを積み立てる、そういう ことは誰にでもできるわけでございます。 そういうイノベーションなりを積み立てて いくというのは、人のため、世のために積 み立てるわけであります。ロータリーで言 う職業とは、元々人のためになる職業を指 しているわけでございます。だから、泥棒 のプロがいたとして、実際この世の中にプ ロの泥棒がいますけれども、彼らは泥棒の 専門家でありますけれども、思いやりとい う言葉に欠けているという意味で、ロータ

リーでは職業とは認められないものでございます。どんな職業にあっても工夫することができるわけですね、その工夫の積み重ねが、新しい世界に普及していくということを、ぜひともこの場におられる皆さんには自覚していただきたいと思います。

私は弁護士で、独立してからすぐにロー タリーに入りましたので、ロータリーでの 職業奉仕というものに非常に興味を持ちま した。弁護士で世界的に影響があるという、 そこまではいかないでも、地域に影響のあ ることとは何だろうと。ひとつ考えました のは、当時の京都弁護士会では、まだまだ 個人事務所が多うございました。そういう 中で、個人事務所というのは、小さな事務 所を借りて、1人秘書兼事務員兼その他雑 用係の女性を、女性でなくても男性でもい いのですが、そういう人を採用して独立し ていくというのが、普通のごくありきたり の姿でございました。したがって、法律事 務所の面積もだいたいが 10 坪くらいでご ざいます。机が並べられて、椅子が並べら れて、事務員の椅子が並べられて、あとは お客さんと話をする。そうすると、プライ ベートな話は事務員に聞こえるわけでござ います。そこは、最低ドアを付けている事 務所もありましたけれども、大抵は事務に 丸聞こえというのが通常でございました。 そういう中で、私は私なりに、法律事務所 がどうしたらみんなのためになるんだろう なと思いました。弁護士は秘密を守ってく れるというのが皆さんの期待でございます。 でも、その入り口からですね、もし他人が 入ってくれば、すぐその人が事務所に来た ということがわかるわけですね。来る人は、 自分が法律事務所に来たということも隠し

たい。後で誰かに「弁護士さんに相談した らこんなことやったんやけど、あんた、ど う思う」とか、そういう話は出たとしても、 現場の生々しい姿は見られたくないという のが、皆さんの本音でございます。それを 考えまして、私は最初から、大きいといい ましても 25 坪、出口と入口を別々にしま した。しかも部屋を三つ作りました。うち の事務所に来る人は、普通の人も多いです けれども、神戸では有名だった暴力団員と か、そういう方々が、敵方でお見えになる ことがよくあります。そういう人と一般の 人を、狭い事務所で鉢合わせさせるという のは、弁護士としてやってはいけないこと かなと思いましたので、広い事務所を借り ました。もちろんそれは、それなりの資本 が要りますけれども、そうしました。そう すると、そういう人が来ている場合は必ず 別の入口から出てもらうようにしてもらう。 これが私の一つの弁護士としての工夫です。 もちろん、弁護士としての弁護力だとか研 修などいろいろなことはやりましたけれど も、目に見えてやったのはそれ一つが、ち ょっとその時には誇れるかなと。

当時は京都弁護士会では、独立するとお祝い金と称して、返礼のないお祝い金をくれます。1人大体1万円くれまして、100万円くらいの、当初開業にあたっての資金の一部に使ってくれという趣旨も含まれております。もちろんその時に、ホテルから、ビールとかおつまみとかちょっとしたものを出してもらったりするので、経費もかかりますけれども、それでも半分以上は残るような状態でございます。4月から弁護士になって独立したのが2月ですから、2年と10カ月で独立しましたけれども、3年足

らずだったんですね。で、その人たちが何を言ったかといいますと、「こんな事務所で、そんなもん、客がそんなようけ来るか」と。「3カ月以内に潰れると思うやつ、手を挙げてくれ」と言うと、みんな手を挙げました。いうて1年。それを賭けようかという話もありましたけれども、「これは冗談抜きで絶対潰しません」ということでやりました。結果としては、お客様へのサービスが良かったのか、私の事務所は当初から黒字でございました。それだけではないのですけれども、そういったところでいろんなサービスが良かったのかなと。

自慢みたいな話になるのも嫌なので、こ こだけの話にしておいてもらいたいのです が、それから数年経って日弁連からアンケ ートが来まして、リピーター率ですね。弁 護士としては、リピーター率は 100 パーセ ントくらいでなければあまり意味がないわ けですね。良い仕事をしたとは言えない。 うちの事務所のリピーター率は抜群でござ いました。日弁連のその時のリピーター率 は、私の勘違いもあるかもしれませんが、 極端に少なくて、数パーセントですね。数 パーセントしかリピーター率がなかったと、 こういう実情がありました。たぶん、弁護 士事務所に行って、ぼられて、もう二度と あの事務所には行きたくない、あるいは、 弁護士に非常に怒鳴られて、怖い怖い思い をして、怒られて、結局あまり大したこと はなかったと。そういう事務所が多かった のだろうと思いますけれども、私のところ は非常に高かった。リピーター率は極端に 高うございました。7割ぐらいはそうです。 7 割のリピーター率といったら、小売商店 でいえば最高峰ぐらいいくのかなと思いま

すけれども、それだけのリピーター率がなければ、私の事務所は潰れていたかなと思います。まあ、そのために工夫はしていたということでございます。

しばらくして、事務所も少し金銭に余裕 が出てきたときには、事務員にも福利厚生 サービスをしてやらなければ、事務員も明 るい顔ができないということで、一般大企 業ならどこでも持っている、別荘といいま すか、山の家とか海の家、僕も無理をして、 山の家と海の家を事務員のために買いまし た。土地を買って、家を建ててもらったわ けでありますが、そうすると事務員は明る くなる。そういうふうに僕が考えてくれて いるということで、非常に明るく仕事をし てくれるようになる。結果的に、その山の 別荘はゴルフ場とスキー場があるところで、 海の別荘は、海に面した、すぐそこから泳 げるという場所でしたけれども、利用率は、 当初は上がっていましたけれども、後は下 がってきました。行くのがちょっと時間が かかるということで、そんなに高くはなか ったので、何十年かして、損をして売って しまいましたけれども、でも、それをやっ たおかげで、事務員が明るくなったという のは一つのサービス、お客様に対するサー ビスだというふうに思いました。この事務 所に来たら、みんな気楽に話ができるとい うことで。ついでに言いますと、これはあ まりサービスの努力とは関係ないですが、 よく法律事務所の弁護士などがテレビに出 ますと、大抵は後ろに本棚が並んでおりま す。お客さんの後ろにざあっと本を並べた 事務所が多いです。今はだいぶ少なくなっ ていると思いますが。今はコンピューター が発達していますからあまり必要ないので

すが、昔は判例体系という、でかい、600 冊 700 冊くらいあるんですかね、それの本 を全部後ろに並べて、いかにもそれを全部 読んだような顔をしてそれを背にした弁護 士というのは、お客さんからすれば威圧感 がある。それをよその事務所でそう感じて、 「あの先生は怖くて威圧感があるし、到底 私ら、よう話しません。この事務所はその 点楽です」ということで、私はお客さんと 会う部屋には六法全書は机の上に置いてい ましたけれど、それ以外は置いていません でした。これは非常に良かったなと思いま す。「この事務所に来たら、気が晴れます」 と。お客さんは非常にストレスを負ってい るわけですね。ストレスを負っている上に、 読みもしない、お客さんからすると「こん なの読んではんねんな」というのが重みに なるわけですが、そういうものじゃないよ と。時々聞かれましたけれども、「これを 全部読んでいたら、その弁護士はあまり優 秀じゃないよ」と。「必要な時にどこにそ れがあるかをわかる能力があれば、そんな 物はしまっておいていいものですよ」とい うことで、私は書庫は別にしていました。 お客さんには、本は見せないようにしてい ました。それは、実はお客さんに対するサ ービスであっただろうと思いますし、それ は当初独立した時からそういうふうにしま した。そういうことがあって、今でもそう ですけれど、「この事務所に来たら、とに かくほっとします、相談しただけで、私た ちはなにか気が楽になったような気がしま す」ということで、結果的に、私の事務所 のリピーター率が上がった。この頃は、私 も事務所に出ることは少ないので、リピー ター率はそんなに高くはなっていないと思

いますけれども、そういうサービスという のは誰でもできるわけですね。

製造業の人であれば、手を抜かない。あ るいは、それをもっと良くする工夫をする。 販売業であれば、良いものを販売する。決 して悪いものを売ってはいけない。悪いも のを売るなら、それなりの安い値段で売る のなら良いのですけれど、その時には「こ れはこういう欠点がありますから、ここは 注意してください」とか、そういうことを しながら、倫理的にきちんと説明してやら なければいけない。これは職業奉仕ですの で、誰にでもできることであります。ここ にいらっしゃる皆さんは、全部その工夫は 自分で考えられたら、昨日、一昨日、1年 前、2年前と同じ仕事をしておられるとい うことは、それはないと思いますが、速度 をもう少し上げてもらうと、職業奉仕とい うのは意識的にできるのではないかなとい うふうに思います。職業奉仕の本論になか なか入らずに最初の段階で止まっているよ うに思いますけれども、職業奉仕のことを 話し出すと、話はなんぼでもあるというこ とでございます。

今、実践例に触れましたので、ついでに 話を申し上げますが、職業奉仕実践練習と いうのがありますね、昔はよく出ていまし た。材木屋さんが、昔の紀伊國屋みたいな ことでしょうけれど、材木を買っておいて、 被害が出たら、それを被害が出たところに 送る。これは職業奉仕だと、職業奉仕事例 集に書いてありますけれども、それは職業 奉仕ではなく、社会奉仕ですね。特定の人 を助けるのは社会奉仕です。職業奉仕は、 非特定の人を助ける一般的な行為。だから 昔は職業奉仕についてもずいぶん間違った ことが書かれておりました。

古い手続要覧を持ってきたのですが、その中に、その中に、職業指導というのがある。これはなにも今生きているわけではございませんが、RIの考えていることとはこんなことかなと思いましたけれども、「若人の職業選択を援助する活動は、クラブの職業奉仕会活動の一つである」と。「青少年奉仕活動委員会の協力の下に、若人の職業選択を援助する活動を進めるため、職業奉仕委員会の下に、就職相談小委員会を設置するように示唆されている」と、1984年版の職業奉仕の欄に書いてあります。

この頃は職業奉仕の概念はまだまだロー タリーの中で重みを成していたわけですが、 でもこの時にこういう間違った考え方を、 こういった手続要覧に載せて、ここは国際 的に流れますから、そういうものを流して いたとしたら、RI の功罪というのは大き なものがあります。RIのいう職業奉仕とは、 ほかにも非常に間違ったものがありますけ れども、これを権威ある RI 手続要覧とい うものに載れば、世界的にロータリーへ流 れるということで、職業奉仕といえるもの の本当の理解がだんだんと歪んできた。そ の辺も職業奉仕が難しいといわれる原因の 一つになってしまったのかなと思います。 今のは、職業奉仕の実践として具体的に載 っているものから紹介いたしました。

一業種一人制というロータリーの原則が ございます。この一業種一人制というのは 単純なことではなくて、人集めの哲学みた いなものですね。原論ですね。これをやめ てしまった。これは非常にロータリーの会 員増強にとってマイナスの材料になりまし た。これは職業と密接に関連した制度でご

ざいます。一業種一人制というのは、皆さ ん、「では、異業種であればいいのでしょ う?」と、そういう言い方をされる方がい ます。これはロータリーが決して異業種団 体、異業種クラブではありません。異業種 クラブの一つではありますけれども、普通、 異業種の集まりというのは、いろいろな業 種の人が集まって、それぞれのノウハウを 寄せ集めて何かをしましょうという考え方 ですが、一業種一人制の大事なところは、 ロータリーが昔はテリトリー、今でもロー タリーの実質的支配するクラブの地域とい うのは、ある程度想定上のものとして考え られておりますけれども、この中で、職業 人として1番の人を選ぶというのは、一業 種一人制の考え方でございます。だから、 2番目、3番目の人を選択してはいけない。 ただし、もちろんそれは職業だけに特化し てロータリー的な発想を持っていない人と か、そういう人を除いて、あらゆる面で相 対的に見て、1位である人を選ぶというの が、一業種一人制の原則ですね。だから、 100 人くらいのクラブで、今は定款でいき ますと5人ぐらいまでは構わないというの で、一業種限定会員制というようなことに なろうかと思いますけれども、そうすると、 大きなクラブになってくると、もっとそれ が1割ぐらいまで増えるのですかね。同じ 業種がどんどん集まっていくと。そうする と異業種間の交流がロータリーの例会でで きなくなってしまうおそれがあるというこ とであります。つまり、能力の一番高い人、 能力というのは職業上の単なる能力ではな くて、ロータリアンとしての能力ですね、 それでしかも一業種一人として出している 人、こういう人の集まりの中で、仮に1か ら 5 番目まで、あるいは 1 から 10 番目までに入ってしまうと、ひとつの勢力になってしまって、ロータリー全体が歪んで見えかねない、あるいは、ロータリーの本来の例会の機能が果たせない。もし、一業種一人制を厳格に運用していれば、優秀な人たちは、「そういうクラブならぜひとも入りたい」という人が増えると思います。

私の所属している京都東ロータリークラ ブは、先ほども言いましたけれども、一業 種一人制を厳格に守っていた時には、120 人ぐらいの会員でございました。ちょうど 日本全国で最大が 13~14 万くらいまでい きましたかね。その時には会員増強、会員 増強ということで、一業種一人制というの が緩んできた。あるいは勧誘の仕方も緩ん できた。会員選考委員会の機能が落ちたと。 こういう形になってから以降、現在に至る まで、人数は減り続けでございまして、今 現在81名でございます。実際に、その間に 辞めて行かれた方は、「一業種一人制でな くなってからロータリーの魅力はないわ。 あまり良い人がいない。だから、悪いけれ どわしは辞めていく」という人は、何人も うちのクラブにいらっしゃいます。「だけ どお前はまだ辞められへんよ | と脅して行 かれますけれども、うちのクラブに限って 言えば、会員増強に力を注ぐような RI の 指導が浸透してしまったが故に、会員が減 ってしまった。責任をどう取ってくれるの ですかと言いたいですね。RI なんて、わ れわれのクラブのしもべですからね。RI の本部に行きますと、昔は「One Rotary Center」というふうになっていましたけれ ども、今は、「Headquarter of Rotary」と 書いておりますね、ロータリーの司令部と

いう看板が上がっています。そんなところ にロータリーのしもべがいて大きな顔をす るなと僕は言いたいです。うちのクラブは それで人数を減らしてしまいました。それ まで非常にうまくいっていたのが、今や減 ってくると、どうしてもいろいろな面で悪 影響が出てしまうということでございます。 80名くらいですから、かろうじて運営はで きるだろうと思っていますけれども、これ からもなかなか増えることはないかなと。 日本全国でいえば、今ロータリアンの数は 8万2,000人ですかね、8万人2,000を切っ たかもしれません。日本全国でいえば、13 ~14万人まで一時は増えました。だが結局、 辞めていかれた。辞めていかれた中に、 元々質の悪い人が辞めて行ってくれたなら、 それはそれでいいんですけれども、良い人 たち、本来ロータリーに残っていくべき人 たちが辞めていって質が下がっていくとす れば、ロータリーで会員増強をしたって、 そんな魅力のないところに誰もお金を出し てまで来ない。これが現実の姿ではないか なと思います。だから、会員増強というの は非常に重要な役割ですけれども、選択を しないで会員を増強するということは考え ものであるということをよくよく頭の中に 入れておいていただきたいと思います。

もう一つ大きな問題として出てくるのは、ロータリー財団ですね。社会奉仕が非常に力を持っているということは、ロータリー財団が力をもっているからということでございます。ロータリー財団というのは、団体奉仕の典型でございます。ロータリー財団は、ポリオをやっております。私はポリオをやることについて反対ではございません。でも、今から考えると、ロータリーの

力量にはちょっと重たかったかなと思いますし、ロータリー財団でたまたまできたので、そこがやるなら別に反対はしないわということでございますが、これから先は、ロータリー財団は縮小していくべきだというのが私の考え方でございます。

ロータリー財団は、主として社会奉仕を する団体でございます。われわれはロータ リー財団を動かす力は持っておりません。 ロータリークラブは、ロータリー財団を動 かす力は持っておりません。財団奨学生を 推薦するといった面はございますけれども、 財団について具体的な方針を固めていくと いうことについては、われわれは力を持っ ておりませんので、ロータリー財団は縮小 していくべきものかなと。今、あるロータ リー財団の委員長が、お金を持っているか らそう言ったのでしょうけれども、「ロー タリーで一番偉い人は、財団委員長ですよ」 と。「なぜなら、ロータリー財団委員長は ロータリーの会長をやってからしかなれな いから、そういう意味ではロータリー財団 管理委員長は一番偉いんですよ」というよ うなことをおっしゃったという話がありま す。本来、RI 自体は各ロータリークラブの しもべとなって働く人たちですね。彼らは 公務員でございます。われわれから見たら、 国と対比的にいえば、彼らは公務員であり ます。公僕であって、われわれに奉仕する のがロータリーの本部であります。その本 部の主要な関係機関として財団がある。そ の財団が今度はわれわれに毎年何ドルの寄 付をしなさいということで、一種の強制を しているわけですね。そんなことになって、 ずいぶんそれに苦い顔をされる人もいます が、「RI やロータリー財団の言うことだか

らしょうがないね」と言っている人もいる。 さて、職業奉仕そのものについて述べた いと思います。私のクラブに在籍されてい ました、もう亡くならておりますが、平澤 興(ひらざわこう)パストガバナーという 方がいらっしゃいます。この方は、京都大 学の総長をされた方でございまして、わが 地区では、当時最も力のあるパストガバナ ーとみんなが評価していました。現 2650 地区で一番力のある方は、皆さんもわかる かもしれませんが、千パストガバナーです ね。この人が諮問委員会なりを指導的に導 いてきておられるというのが現状です。千 パストガバナーについてはさておきまして、 平澤パストカバナーが職業奉仕について話 をされたことが何度もあります。「職業奉 仕というのは簡単だよ」と。「職業奉仕の 考え方を理解するのは、そんな難しいこと じゃないよ。職業奉仕の実践をするという ことは難しいですよ」とおっしゃられまし た。その当時は、職業奉仕は難しい、難し いと、職業奉仕の本を買って、最初に職業 奉仕の学ぶのは難しいと、こういうふうに 書いてあるわけですから、読む者にとって はたまらないものですが、私の職業奉仕は 簡単なものだと。社会奉仕は社会に奉仕を しますよと。青少年奉仕は青少年に奉仕し ますよと。クラブ奉仕はクラブに対して奉 仕しますよと。職業奉仕は職業に対して奉 仕するのですよと。それだけのことでござ います。

「職業に対して奉仕をする」ということはどういうことかというと、職業の質を上げていく作業でございます。これが職業奉仕です。一言で言えば、これだけなのです。しかし、それにひっついて職業というもの

は自分で好き好んで勝手にやるものでもな んでもないわけです。社会から求められて いる。需要がある。他人が求めている職業 ということで、人間は生まれた時から他人 と関係していますけれども、職業を選んだ 時に、それは自分が選んだと本人は思って いますけれども、実は社会がその人を要求 していたということになるわけですね。だ から、その人たちのために、自分はその職 業に邁進しなければいけない。先ほども言 いましたように、その職業にノウハウを付 けたり、あるいは新発見をしたり、イノベ ーションを起こしたり、いろいろ表現はあ るでしょうけれども、そういうものが「職 業奉仕」ということになります。難しいも のではありません。これなら先ほど、誰で もやれると申しましたが、平澤先生がおっ しゃったのは、これを普段の努力のもとで やってもらいたいと。それが難しいところ なのですよと。みんなちょっと成功すると、 もうそれでいいとなりがちだと。ちょっと 成功してもそれに甘んじないで、さらにそ の上を行ってもらいたい。ちょっと成功す る能力のある人には、もっと成功する能力 があるんだと、こういう考え方ですよね。 これは難しいと思います。人間やっぱりあ る程度成功してちやほやされると、「ああ、 もうこれでいいんだ」となりがちですけれ ども、これを実践していくというのは、非 常に難しいことでございます。それを実践 していくということについての難しさとい うのは、語りつくせるものではございませ ん。人によっては、そんなことをずっと続 けているわけにはいかないという人もいら っしゃるでしょうけれども、先ほども例に 挙げました本庶さんなんかは、何ら変わり

なく、以前と同じ研究生活で、以前と同じ 生真面目に自分の職業の質、医療の質を上 げようとしておられる、これはすばらしい 職業奉仕です。ぜひとも入ってもらいたい 先生ですが、この先生の生活はとても忙し くて、そんなことを言い出せる人ではござ いませんでしたので、私は一度も声をかけ ていませんが、うちのクラブは昔のテリト リーの中に京都大学があったものですから、 京都大学の教授が多かった。そういう意味 で、本庶さんなどは昔から有名な人ですか ら、声をかけてもよかったし、本庶先生と 友だちのロータリアンがうちの京都大学の 先生でいらっしゃいますし、そういう人に 声をかけてもらってもよかった。あるいは 僕も直接知っていますから、声をかけても よかったと思うのですが、非常に忙しくて、 とてもロータリーの例会には出席できない。 ロータリーの例会に出席できない人はロー タリアンとしては言い方は悪いですが、失 格ということになります。ロータリーの例 会というのは、例会に出て、いろいろな職 業の人と話を交わしながら、いろいろな人 のノウハウを聞くことによって自分の職業 にそれを応用するという、そういう機能が ございます。だから、ロータリーでは、例 会出席は絶対のもの、義務でございます。 今の手続要覧を見ますと、あるいは RI の 考え方ですか、50パーセント出席したらい い。そんな中途半端なことをしてどうする んですか。どういう考えで 50 パーセント なんですかと言いたいですね。RI は例会 に代わって、いわゆる奉仕プロジェクト、 RIのいう奉仕プロジェクトというのは、な にかごまかしのような気はしますけれども、 単なる奉仕活動ですよね、奉仕プロジェク

トに参加していたら、それは出席になりますよと。それは例会で果たすべきものを、そういうところで果たしなさいということですから、そうすると、現場での作業となんですなと、そういうことなんですよね。ノウハウの交換というのは、現場でやるべきものではなくて、それを現場でやるべきものなんです。それを現場でやるとするならば、現場の実践作業にてもいるですけど、そこでそういう話がいつも出ているのだったら、それはロータリーの活動をいい加減にするための言い分だなと思います。だから、例会はどうしても出てもらいたいと思っております。

先ほどチラッと聞いていましたが、「次 の例会でね」「来週の例会でね」と、これ は日本のロータリーでは例会出席というの は毎週やるものだというふうなことは、今 のところ緩んでいないように思いますけれ ども、規定上はそういうふうになっている ということですね。ロータリーの例会でも し 50 パーセント休んでいてずっと会員で あったら、その人はロータリーの議論から どうしてものけ者にされる。なにも意図的 にその人をのけ者にするという悪い意味で はないのですが、ついていけなくする、そ ういうことですから、例会はできるだけ休 まないように。どうしてもしょうがない時 は、よそのクラブに行って、メークアップ してくださいというふうになりますけれど も、できるだけそういうノウハウの習得、 あるいは自分のノウハウの披露をしてくだ さいねということになろうかと思います。 ですから、ロータリーと例会は決して切り 離せないものなのですね。なぜ切り離せな

いかというと、それはロータリーの中核的 概念が、職業奉仕だから切り離せないんで すね。社会奉仕だったら切り離せるかとい うと、社会奉仕だったら、僕は切り離せる と思います。社会奉仕に質の向上とか、そんなことは特にない。量を増やすとか増や さないとかいうことぐらいはあるでしょう けれども、そんな大したものではないかな というふうに思います。

あと 25 分ほどありますので、「職業奉仕 は心の故郷」ということを最後にまとめと して言いたいと思います。先ほどから言っ ていますように、職業というのは、他人の ためにするものであります。自分のために するものではありません。自分の生活の糧 を生むためにするという、そういう付属的 なものはありますけれども、職業本来は、 他人が求めるものをするから、職業として 成り立つわけですね。自分のためだけにす るのであれば、他人が要らないというふう になれば、もうそれでお終いとなるんです が、他人のためにする職業奉仕であれば、 その職業奉仕の質を上げていかなければい けないという必然性が出てきます。自分の ためにするものであれば、食っていければ いいだけの職業をやっていればいいという ことになりますから、そこには職業の質を 上げるという作業は出て来ないものであり ます。自分の糧をもっと多くしたいために 職業の質を上げるという人もいるかもしれ ませんけれども、その発想を取る人には、 あまり職業の質を上げる考え方は期待でき ないなと思っております。

職業奉仕というのは、他人のためにやる もの。他人のためにやるというのは、結局 はその他人に対して思いを馳せることです。

その他人が自分の造ったもの、売ったもの、 あるいは何かサービスをしたもの、そうい ったもので、いい思いをしてもらいたいが ために、その職業に従事していると。これ はどんな職業にあっても同じことだと思い ます。そうなれば、結局は、職業奉仕とい うのは他人への思いやりからなっていると いうことになります。他人への思いやりと いうのは、社会奉仕も他人への思いやりが 必要なのですが、本来の他人への思いやり というのは、職業というのは毎日毎日従事 しているわけですから、社会奉仕は日曜日 に考えたらいい、土曜日に考えたらいいと か、休日でもできるわけです。今のところ、 職業奉仕というのは、毎日毎日従事して、 仕事をやっていると。そうすると、毎日毎 日それを待つ人たちに思いやりを込めた作 業をしている。こういうことになりますね。 そうすると、結局、思いやりの心は、実は、 職業奉仕から出てきたものであるというこ とがいえると思います。同じように、職業 奉仕から出てくる思いやりということを社 会奉仕に適用したら、社会奉仕にも思いや りが必要かなと。国際奉仕は社会奉仕とか 職業奉仕とか関係なしにそれぞれの分野で 国際社会奉仕とか国際職業奉仕とか、いろ いろそれは国際版であるというだけの話で あって、国際奉仕がどうのこうのと特別な 考え方がいるというわけではございません ので、その辺についてはよく考えておいて いただきたい。

したがって、私は職業奉仕というのは、 「上位概念」というふうに考えております。 それを先ほどちらっと言いましたけれども、 「The Object of Rotary」という言葉があ りますね。第3章の題名は、「Object」だ けでしたかね。条文は古いものと変わりますけれども、これは 1989 年版の英文の手続要覧ですが、これには第 3 章になっていますね。今は第 5 章になっているんですかね。ちょっとわかりませんが。

この「Object」の前に、実はちょうど説 明しようと思っていたのですが、配られた 資料の中に日本語訳があったと思います。 資料 1 です。『ロータリーの目的(綱領)」 とありますが、その前に気がつきましたの でお教えしておきます。1 枚めくってもら った右側に、社会奉仕に関する 1923 年の 声明。決議23-34の原文の日本語訳の第1 項に、「ロータリーは、基本的には、一つ の人生哲学であり、それは利己的な欲求と 義務およびこれに伴う他人のために奉仕し たいという感情とのあいだに常に存在する 矛盾を和らげようとするものである。この 哲学は奉仕―「超我の奉仕」の哲学であり、 「最もよく奉仕する者、最も多く報いられ る」という実践的な倫理原則に基づくもの である』ということで、決議 23-34 条、 本来はこれなんですね、今日いただいたと ころに書いてある「社会奉仕に関する声 明」、これにも第 1 項で同じことが書いて あります。「Service Above Self」と「One Profits Most Who Serves Best」と。一時 これは、女性会員が入会オーケーになった 時に「We Profits Most Who Serve Best」 というふうに RI がやって、「それはおかし いんじゃないの、個人奉仕がロータリーの 哲学でしょう」ということになって、 「One」になり、「One Profits Most Who Serves Best」、まあ、「He」と同じような 扱いになったのです。「He」でも「She」 でも構いませんが、とにかく、一人称、ひ

とり、複数形でないということでございま す。

そして、今度は「Object of Rotary」です。 この文章を見ますと、第1、第2、第3、第 4 でいろいろと混ざって書いてあるように 見えます。私はこの訳は採用していません。 私は、これはロータリーの綱領でもいいの ですが、一応私なりに訳したのは、綱領第 5条は「課題」としました。「ロータリーの 課題は、第1に、奉仕をするということは、 知り合いを広めるということを認識し、第 2 に、職業に高い倫理観を制定し、有益な 事業の重要性を認識し、社会に奉仕するロ ータリアン各自の職業を尊重し、第3に、 ロータリアン各自がそのあらゆる生活面に おいて奉仕の理念を実践し、さらに第4に、 奉仕の理念に集う職業人が、国際人として 国際理解・親善・平和を推進するという四 つの面を充足しつつ、有益な財産、有益な 職業をベースとする奉仕の理念を実践し、 推進・協力・奨励することにある」と訳し ました。これはちょっとややこしいかなと いうふうに思いましたので、これをもう一 回さらに整理して、「ロータリーの課題は、 有益な職業及び職業をベースとする奉仕の 理念を推進・奨励することにある。具体的 には、次の四つの面を充足することにある。 すなわち、第1に、奉仕をするというのは 知り合いを広めることであることを理解し、 第 2 に職業に高い倫理規定(high ethical standard)を制定し、有益な職業の重要性 を認識し、社会に奉仕するロータリアン各 自の職業を尊重し、第3に、ロータリアン 各自がそのあらゆる生活面において、奉仕 の理念を実践し、第4に、奉仕の理念に集 う職業人が国際人として、国際理解・親

睦・平和を推進することにある」というこ とで、これは全て職業奉仕を書いたものだ と私は理解しております。これにはずいぶ ん異論はあると思いますし、この「Object of Rotary」の翻訳について、一時、翻訳委 員会が設置されました。その時に私もその 翻訳委員の1人としていろいろ意見を言っ たのですが、私は翻訳というものは、その 翻訳は多数決で決めていくわけですね。そ れしかしょうがなかったのだろうと思いま すけれども、まとめられたのは岡山の大先 生でございました。翻訳というのは、1人 で翻訳したものに手を加えるというのは構 わないと思いますけれども、そういう作業 が必要だと思います。多数決で「ここはど うですかしとなっていくと、どうしても個 別で言われていることが重要になってきて、 肝心なところに手を付けられない。それで、 そのままで「じゃあ、ほかはそれでいきま しょう」ということになってしまう。その 結果、今の文章になってしまったと。私も

その時に「もうこれでいい」と言いました ので、無理強いはしなかったのですけれど も、それをまとめられた岡山の鳥居パスト ガバナーも大変苦労されたことはよく覚え ていますし、あまりこんなことでぐちゃく ちゃ言うのもなんだということで、私はも う大半の意見で、「それで結構です、それ で結構です」ということで、多数決でそれ ぞれ取っていかれましたが、あまり多数決 ではいい訳はできないなと、今つくづくと 思っております。

大体以上が、私の「職業奉仕は心の故郷」で、「心の故郷」には、社会奉仕で思いやりの心を持てば、それに感応する、感謝するということで、その心がまた「職業奉仕の心の故郷」に戻ってくるだろうと思いますので、私は、「職業奉仕は心の故郷」というふうに思っております。

以上でございます。ご清聴ありがとうご ざいました(拍手)。